

科目名	看護管理と看護の活動領域	単位数	1	時間数	15
講師名	病院看護部長 病院看護師 JICA 派遣講師	実務経験	有	履修年次	3年
科目の概要	当科目には、看護管理、国際看護、災害看護の内容を含む。看護管理では組織における看護師の役割やマネジメントの基本的な知識・技術を、国際看護・災害看護においては看護の場の広がり学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理—看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップがわかる マネジメントの基本的な考え方がわかる チーム医療における看護師の役割がわかる</li> <li>2. 国際看護—看護の国際協力の必要性がわかる</li> <li>3. 災害看護—災害時における看護がわかる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理と看護の活動領域 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護管理とは何か</li> <li>(2) 組織における看護師の役割 看護師のメンバーシップ、リーダーシップ</li> <li>(3) ケアのマネジメント</li> <li>(4) マネジメントに必要な知識と技術</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>	講義 演習	6H	病院 看護部長	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>2) 国際看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 国際看護とは何か</li> <li>(2) 国際看護の実際</li> </ol> </li> </ol>	講演	2H	JICA	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>3) 災害看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 災害看護とは何か</li> <li>(2) 災害時における看護の実際</li> </ol> </li> </ol>	講義 演習	6H	病院 看護師	
評価方法	レポート		1H		
テキスト					
参考文献	黒田裕子他 2005、災害看護、メデイカ出版 小原真理子他、2007、災害看護、南山堂				
<b>担当教員からのメッセージ</b> 看護管理では、統合実習を挟み看護のマネージメントと、場や状況に対応した看護の基本を学びます。実習で、病棟師長の役割を理解できるように積極的に質問などしていきましょう。 国際看護、災害看護では実際に海外や被災地で看護活動をした看護師が講義します。身近なこととして考えていけるようにしましょう。					

科目名	看護研究	単位数	1	時間数	30
講師名	病院看護師 専任教員	実務経験	有	履修年次	3年
科目の概要	本科目の履修とケーススタディの実施を通して、日々進歩する看護学の専門知識を実践に活かす方法を習得するとともに、他職種と連携して働く中で、看護の視点から論理的な意見を述べるができるようになることを目指す。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の目的と意義を理解する。</li> <li>2. 研究論文を入手して読むことができる。</li> <li>3. 形式に沿って研究計画書を書くことができる。</li> <li>4. 研究論文を読み、クリティークした内容を説明することができる。</li> <li>5. 実習で受け持った一事例の経過を一つのテーマに沿ったケーススタディにまとめ、看護実践への示唆を述べるができる。</li> <li>6. 発表会で発表し、他の学生や教員とディスカッションすることができる。</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の目的と意義</li> <li>2. 看護研究の種類</li> <li>3. 看護研究の進め方</li> <li>4. 研究における倫理的配慮</li> <li>5. 文献の目的と意義</li> <li>6. 文献の種類・論文の種類</li> <li>7. 文献検索方法</li> <li>8. 文献のクリティークと活用</li> <li>9. 課題①：研究論文の検索とクリティーク</li> <li>10. ケーススタディの目的と意義</li> <li>11. ケーススタディの進め方</li> <li>12. 研究計画書の書き方</li> <li>13. 課題②：研究計画書の作成</li> <li>14. 論文の構成と内容</li> <li>15. 論文の書き方</li> <li>16. ケーススタディのまとめ方</li> <li>17. 発表の方法</li> <li>18. まとめ</li> </ol>	講義 課題レポートの作成 グループ ディスカッション 研究計画書の作成	12H	病院 看護師	
	19. 課題③：ケーススタディの実施とレポートの作成	個人ワーク	3H		
	20. 発表会	担当教員の指導を受け、受け持ち患者のケーススタディを行う	15H	専任教員	
評価方法	提出物の提出状況とケーススタディへの取り組み方およびそれらの内容発表会への参加状況による評価				
テキスト	南裕子、野島佐由美. 看護における研究 第2版. 東京, 日本看護協会出版会, 2017.				
参考文献	適宜、資料を配布します。				
<b>担当教員からのメッセージ</b> 専門職になるのだということを自覚して、自ら勉強する姿勢を身につけてください。まずは文献を読めるようになりましょう。					

科目名	臨床応用看護論	単位数	2	時間数	45
講師名	全教員 病院看護師（臨床指導者）	実務経験	有	履修年次	3年
科目の概要	この科目は3年次前期・後期に配し臨床への橋わたし的な役割を果たす。臨床で適応できるように、演習を多用し、総合的に判断し看護実践してゆく力をつける。看護の実践能力育成演習、医療安全シミュレーション演習、技術到達度の確認演習で構成される。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の実践能力育成演習—総合的な判断と技術の実践 提示された事例に必要な看護を導き出し、実践ができる</li> <li>2. 医療安全教育 自己モニタリング能力を働かせ危険因子に気づき危険回避のための対応策を考えることができる 自分も事故を起こす可能性があることを実感する</li> <li>3. 技術の到達度の確認—客観的臨床能力試験 客観的臨床能力試験に合格する 自己の技術到達度が自覚できる</li> </ol>				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 看護の実践能力育成演習 総合的な判断と技術の実践 1) 必要な看護を考え実践する事例 (1) 周手術期にある患者で手術終了直後の看護 (2) 胃腸炎で下痢をしている患児の看護 (3) 高齢者の排泄の看護 (4) 新生児のフィジカルアセスメントの実践 2) 課題作成 3) まとめ	講義・学習  演習  レポート	2H  11H  2H	全教員	
	2. 医療安全教育 1) オリエンテーション・講義 2) 演習 3) 振り返り	講義 演習 レポート・講義	3H 8H 4H	全教員	
	3. 技術の到達度の確認—客観的臨床能力試験 1) 客観的臨床能力試験の実施 2) 自己の技術の振り返り 3) まとめ	講義 試験 レポート・講義	4H 7H 4H	全教員	
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題の評価（10点×4領域 40点）</li> <li>2. レポート（20点）</li> <li>3. 試験（30点）、レポート（10点）</li> </ol>				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[33] 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）				
参考文献	看護技術に関する文献 小児・母性・成人、老年各領域に必要な文献				
<b>担当教員からのメッセージ</b> 看護の実践能力育成演習は、実習に繋がります。しっかり吸収しましょう。客観的臨床能力試験は、統合実習後に行ないます。実習で培われた看護を発揮させてください。インシデントは、誰にでも起こりえることです。自分の傾向を知ることが大切です。対策を立てられる力をつけていきましょう。					